被災地支援プロジェクトにおける子どもの幸福感に関する研究

篠崎　健二（生涯スポーツ学科　野外スポーツコース）
指導教員：黒澤毅

キーワード：被災地支援プロジェクト　子ども　幸福感

1.　諸言

2011 年 3 月 11 日、未曾有の大地震、大津波により福島第一原子力発電所の大量の放射能が漏洩され、福島県近郊は被爆の恐怖にさらされた。そのため、福島の子ども達から少しでも放射能の危険を減らすため、ドイツのドルトムント日独協会は義援金を募り、沖縄ユースホステル協会と合同で野外教育事業を行った。野外教育の効果として「野外教育の多くの教育的効果の一部として心理的側面への効果がある」と言われている。主観的幸福感は自己の生活に対する満足感からなる認知的側面と、ポジティブ感情、ネガティブ感情を含む感情的側面から捉えられている。

そこで本研究は、被災地支援プロジェクトに参加した子供たちの幸福感を明らかにすることを目的とした。

2.　研究方法

【被験者】2011 年 7 月 26 日～8 月 23 日に行われた 27 泊 28 日の支援プロジェクトに参加した子ども 110 名のうち、中高生 23 名を対象とした。

【調査用紙】坂入ら[3]の二次元気分尺度を取りいれた 2 因子(ポジティブ覚醒、ネガティブ覚醒)からなる計 8 項目から快適度を測った。伊藤ら[1]の 12 項目からなる主観的幸福感尺度より 4 因子(人生に対する前向きな気持ち、自信、達成感、人生に対する絶望感のなさ)の 12 項目、そして近藤[2]の抑うつに耐える力尺度より 1 因子(不安に向き合う力)6 項目を加えた計 3 尺度 7 因子 26 項目で測定を行った。

【調査時期】支援プロジェクト初日(pre)、キャンプ初日(camp pre)、キャンプ最終日(camp post)、支援プロジェクト最終日(post)の計 4 回行った。

【プログラム内容】7 月 26 日から 8 月 23 日まで集団宿泊体験を行い、8 月 8 日～8 月 11 日にキャンプを行った。

3.　結果と考察

二次元気分は、ポジティブ覚醒因子の pre と post 間において得点の向上傾向が見られた。次に主観的幸福感の得点の変化として pre と camp post 間において得点は低下したが、pre と post 間、camp pre と post 間、camp post と post 間においても得点は低下した。理由として、放射能の危険がない場所での生活は子ども達にとって幸福感が高くなったが、支援プロジェクト終了が近づくにつれ、福島での生活のことを考えたことで男女に違いが見られた。またポジティブ覚醒因子による変化から影響させていることが明らかとなり、感情的側面からの幸福感は向上している結果となった。主観的幸福感は pre と post 間、pre と camp post 間、camp post と post 間、pre と post 間において得点が低下した。低下した理由として、主観的幸福感は沖縄に避難できたため、宿泊初日から幸福感は高かったと考えられる(図 1)。

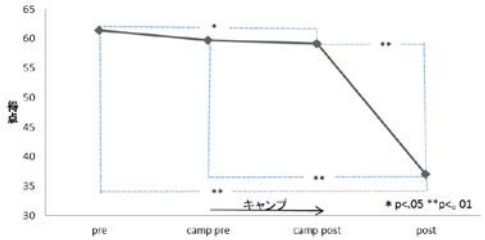

図 1.　全体の主観的幸福感尺度による幸福感得点の推移

次に、主観的幸福感を構成する因子別にみた結果、達成感因子において pre と camp pre 間、pre と camp post 間、pre と post 間において得点は低下した。女子は camp pre と post 間において、得点に向上傾向が見られた男女の達成感因子平均得点については、pre 時における達成感因子得点が 12 点満点中 11.48 点(女子)、11.00 点(男子)であった。これは、放射能汚染に悩まされる福島から沖縄に来ることが出来、達成感は高まったが、キャンプ初日では低下した。しかしその後、男女に得点の差が見られた。理由として女子には向社会的行動が多く見られたために前向きな考え、姿勢が幸福感の向上に影響を与えたと考えた（図 2)。

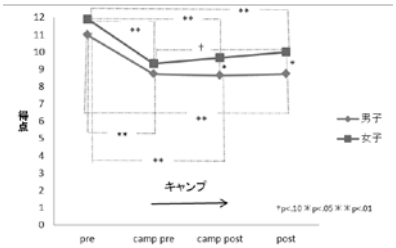

図 2. 男女の達成感因子による幸福感得点の推移

4.　結論

1)支援プロジェクトに参加した参加者の感情的側面における幸福感は向上した。2)支援プロジェクトに参加した参加者の認知的側面における幸福感は低下した。3)支援プロジェクトに参加した参加者の認知的側面における幸福感はプロジェクト初日から高かった。4)支援プロジェクトに参加した参加者の男女別に見た幸福感は女子において向上が多く見られた。

引用・参考文献

1) 伊藤裕子(2003)　主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討　心理学研究 75:p435-441
2) 近藤淳哉・岡本英生・白井利明(2004)　少年の非行からの立ち直りに関係する能力　日本教育心理学会第 46 回総会 :p.91
3) 坂入洋右、徳田英次、川原正人、谷木龍男、征矢英昭(2003)：心理的覚醒度・快適度を測定する二次元気分尺度の開発、 筑波大学体育科学系紀要　Bull.Inst.Health&Sport　Sci.Univ.of Tsukuba26:27-36,2003 :p27-35